

平成25年度 北海道ニセコ高等学校 学校経営に係る学校関係者評価書

学校名	北海道ニセコ高等学校	校長名	板 東 眞 一	実施日	平成25年2月26日
-----	------------	-----	---------	-----	------------

1 学校教育目標

1 自ら学ぶ態度を養い、科学的な知識・技術を身につける。	2 自然を愛し、豊かな知性と情操を養う。
3 勤労を尊び、強健な身体を育てる。	4 個性の確立に努め、社会的連帯意識を養う。

2 本年度の重点目標

<p>一人一人の個性を重視し、自己実現を図るために</p> <p>(1) 毎時間の授業への集中と学習意欲の向上による基礎・基本の着実な定着を図る。</p> <p>(2) 規律、礼儀を重んじた自律的な生活態度を育み、社会人としての資質を培う。</p> <p>(3) 学校の強みを生かした豊かな感動体験、克服体験を通して、生徒の人的成長を図る。</p>
--

3 自己評価結果

【教育活動】

項目	具現化のための方策	達成状況	評価	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の適切さ
【学習指導】 小規模校の利点、各コースの特徴を最大限に活用して、生徒が自ら進んで学習する姿勢を育て、学力の向上を図る。	1 生徒による授業評価、授業研究、研修成果の共有等による授業改善と学び方指導の充実が図られているか。 2 授業規律の徹底、ベル席の励行、授業時間の確保等、生徒が学習する望ましい環境の確保が図られているか。 3 学習障害など特別な支援が必要な生徒の把握と対応及び指導法に関する研修の充実がなされているか。 4 新教育課程実施に伴う新シラバスの計画的作成と高大連携の充実が図られているか。	3.1 3.1 3.1 2.8	B B B C	○ベル席の徹底、忘れ物の根絶、授業中の私語禁止等、基本的な授業規律の徹底を、全教員で統一して指導する体制をつくる。 ○研究授業の機会を増やし、教員間での授業評価を授業力向上に生かす。特に、新採用や期限付き教諭については、前期に集中して研究授業を実施する。 ○学習障害的な傾向を持った生徒に対しては、特別支援研修等を今まで以上に取り組むとともに、個に応じた指導を計画的におこなう体制づくりを図る。 ○特色あるプロジェクト学習に向けて、シラバス作成段階から教科間の連携を密にし、教員間の協力体制の構築を図る。また、地域や大学・専門学校との連携による質の高い実習の充実を図る。	A	A
評価者の意見等	・教員経験の浅い先生や赴任して1年目の先生などに対する研究授業や授業支援等を厚くするのは良いと思います。 ・科目担当教諭にサポート教諭を加えた複数教員による授業等の実施など、個に応じた授業を進めて頂きたい。 ・特に、プロジェクト活動は成果を上げていると考えます。プレゼンテーション能力も身に付くと考えますので、今後も、今まで以上に力を入れることを期待します。					
【生徒指導】 ニセコ高校生としての誇りを持たせ、組織的できめ細やかな指導で、けじめある学校生活を送れるよう支援する。	5 全教職員による日常を通じた挨拶や望ましい言葉遣い、身だしなみ指導等の計画的な指導が図られているか。 6 いじめ実態の定点観測、個別面談の充実、生徒への意識づけなど、他者を思いやる指導の充実がなされているか。 7 面談に係る手順の見直しや研修への活用など、スクールカウンセラーの有効活用がなされているか。 8 効果的な全校集会の在り方の検討と改善が図られているか。	3.5 3.5 3.0 3.3	A A B B	○挨拶や身だしなみについて、ニセコ高校生としての意識を向上させる側面から、全職員が統一した厳しい指導を継続する。 ○ニセコ高校独自のいじめ対策基本方針にしたがい、定期的にいじめに関する指導を実施するとともに、いじめを根絶しようとする生徒意識の高まりを支援することで未然防止を図る。 ○担任は、面談週間等を有効に活用し、生徒理解を深めることができているので、継続していく。難しいケースでは、生徒指導部や寮担当等と連携して教育相談にあたりるとともに、スクールカウンセラーの積極活用を図る。 ○全校集会の運営は、生徒の委員会が主体となって運営しているが、各種行事やコンテスト等に向けた取組がおこなえるよう支援する。	A	A
評価者の意見等	・生徒指導については、良く指導されていると考えます。今後においても、継続的な指導を期待します。 ・本年度のスクールカウンセラーとの連携による指導については理解した。今後も継続して取り組んで頂きたい。 ・いじめを含め、様々な問題について、未然防止の観点で指導して頂きたい。					
【進路指導】 指導の組織性・計画性を強化し、進路指導體制の完成度を高めるとともに、進路決定率100%を維持する。	9 計画的な三者面談、進路開拓、職安・教育局との連携等による早期進路決定への指導がなされているか。 10 進路資料の整備・配布、卒業生講話や保護者説明会の実施など、きめ細かな進路情報の提供がなされているか。 11 各種資格取得や検定受験の奨励と指導の強化、目標の設定と管理が図られているか。 12 新教育課程に対応した進路シラバスの改訂作業への着手がなされているか。	3.4 3.2 3.5 3.1	B B A B	○進路決定に向けた進路説明会、三者面談、保護者説明会、卒業生講話等を組織的におこなえるよう実効性ある計画を立てる。 ○進路情報については、個に応じた情報提供ができるよう、入ってくる情報を選択するとともに、生徒のニーズにあった進路開拓をおこなう。 ○履歴書作成指導、面談指導については、取り組み時期を早め、組織的に実施するよう努める。 ○農業技術検定のような難しい検定の合格率は年々高まっているので、個別指導等を継続的に進める。 ○3年間のスパンで実施される進路指導について、全教員が共通理解し、協力できる体制を築けるよう情報提供を活発におこなう。 ○進路日より等、保護者に向けた情報提供の回数を増やす。	A	A
評価者の意見等	・各種資格試験へ積極的に取り組んでいると考えます。 ・生徒の希望に沿った就職・進学ができるよう今まで以上の指導を期待します。 ・自分の道を早めに決めさせ、芽を伸ばす進路指導をお願いしたい。					
【健康・安全指導】 健康や体力増進、食育に係る指導を充実するとともに、学校が安心安全である学びの場所となるよう危機管理体制を整備する。	13 性や薬物など教科や講話を通じた心身の健康や安全に関する指導の充実が図られているか。 14 学習する場としての学校環境の美化意識向上への取組がなされているか。 15 施設設備の日常的な点検や防災訓練等による教職員の危機管理意識と実践力の向上がなされているか。 16 危機管理マニュアルの点検と更新、教職員間の共有の徹底がなされているか。	3.5 3.3 2.9 3.0	A B C B	○マンネリにならないよう、性や薬物の講演については、講師や実施時期、方法等の再検討を図り、効果的な運用を図る。 ○校舎の老朽化にともない、汚破損箇所を多く目にするようになっているが、安心して安全に学校生活を送るためにも、できるだけ早い修繕をおこなう。 ○日常的な点検ができていないので、声をかけあって点検確認をおこなう必要がある。 ○防災訓練については、より現実的な方法や状況で実施することとし、実施結果の検証を全教職員でおこない、その内容を共有する。また、危機管理マニュアルの定期的な確認、および改訂をおこなう。	A	B
評価者の意見等	・食育について、今まで以上の指導を期待します。 ・校舎、設備等の老朽化については、様々な機会を通して支援のお願いをしていかなければならないと考える。 ・修理等しながら、大切に使用するよう指導をお願いします。 ・危機管理については、厳密にしっかりと対応して頂きたい。					

【学校運営】

項目	具現化のための方策	H25年度		改善の方策		
【信頼される学校づくり】 町立学校の利点を最大限に活用し、保護者や地域社会とともに、互いに連携・協力して生徒を育てる。	1 学校評価委員会の機能を活用した学校評価の推進と学校改善の強化がなされているか。	3.0	B	○全学年で学級通信を毎日発行し、生徒の様子や学級の課題、担任のメッセージ、学校からの連絡事項等を保護者へ届けることができた。また、月1回発行のニセコ高校だよりは、各町内会の協力を得て、回覧等により全町民に情報を発信した。次年度も継続していく。 ○各種学校行事、部活動の大会成績、意見発表大会の様子などは、Webページに掲載したり、ラジオニセコの出演等で広報することができ、多くの方々に感心を寄せていただいたので、継続していく。 ○保護者のニーズをしっかりとキャッチし、丁寧に対応することで信頼関係を向上させる。さらに各種発表会や学校行事、地区別懇談会等への参加を促し、教育の成果を実際に見て頂くよう働きかける。	A	A
	2 学校だより、Webページ、ニセコ高校日記等を活用した情報提供の充実がなされているか。	3.9	A			
	3 意見発表やプロジェクト活動など教育活動を広く保護者や一般町民へ紹介する事業の充実がなされているか。	3.8	A			
	4 テレビやラジオ、新聞など、メディアを活用した広報活動の充実が図られているか。	3.7	A			
評価者の意見等	・生徒の実績をしっかりと出し、地域への広報活動をさらに活発におこなうことを期待します。 ・地域に密着した活動は、評価されている。継続・発展させていきたい。 ・今まで以上に町立学校としてのメリットを発揮願います。					
【組織運営】 教職員一人一人の力を組織として大きな力とし、協働意欲に満ちた活力ある学校づくりに努める。	5 内容の充実と精選による諸会議の効果的な運営と活用と課題解決サイクルの確立がなされているか。	2.9	C	○会議の時間短縮、効果的な運営については、十分に練られた実施要領案を議案とすること、余裕をもった実施要領案の検討が課題解決には必要である。そのためにも、各分掌の部長はリーダーシップを発揮する。 ○学校運営のためのコミュニケーションが希薄だったことが課題であった。PDCAサイクルを意識し連絡体制の強化を図る。 ○内規集の総点検ができ、新年度は改訂された内規に基づき教育活動をおこなうことになる。改訂された内規の主旨を踏まえ、しっかりした運用を全教員でおこなう。 ○校務支援システムの追加された機能や、本校の活用領域について、理解するための研修会を開催する。	A	A
	6 教職員と管理職、管理職間及び事務部との報告・連絡・相談体制の強化が図られているか。	2.9	C			
	7 記載事項に係る不備のチェック、総点検による内規集の完成が図られたか。	3.3	B			
	8 校務支援システムの円滑な導入とペーパーレス化への移行など効果的な活用がなされているか。	3.2	B			
評価者の意見等	・やはりコミュニケーションは大切です。問題意識を共有できるしくみづくりが大切だと考えます。 ・今まで以上に効率的な学校運営を期待します。					
【教職員の資質向上】 教えるプロとして絶えず資質向上に努めるとともに、教育公務員としての服務規律の保持に努める。	9 和やか、かつ学究的、互いに高め合う本校らしい協働体制の維持、強化がなされているか。	3.1	B	○学校運営は、全教職員の協働体制のもとおこなわれているが、高い成果を得るためには、目的の一致と効果的な協働作業によって成される。授業、生徒指導、学校行事、農業クラブ等の指導では連携箇所を明確にする。 ○ニセコ町校長会研修支援費等を使って、積極的に管外や道外への研修を提案するよう、他校の実践等についての情報をできるだけ多く紹介する。 ○服務規律の保持については、定期的に研修をおこなうとともに、相互牽制がはたらく、事故を未然に防げるような校内体制を構築する。 ○課題、実践、研修については、しっかりと記録に残し、自分の教育力の向上に生かす。	A	B
	10 研修の奨励と研修成果の積極的な還元、共有がなされているか。	3.3	B			
	11 短時間の繰り返し研修による服務規律の保持、私費会計マニュアルの策定がなされているか。	2.9	C			
	12 学校課題に応じた先進地視察など研修の適切な実施による資質・能力の向上がなされているか。	3.2	B			
評価者の意見等	・教職員については、研修等に積極的に参加し、生徒等へ情報を提供して欲しい。 ・町の支援により、道内・道外への研修に多くの先生方が参加し、成果を上げたことは理解した。引き続き資質向上に努めて下さい。 ・教職員の金銭事故を防止し、健全に運用されるためにも、私費会計マニュアルの策定・適切な運用をお願いしたい。 ・教職員の服務規律の保持については、引き続き、厳密にのぞんで下さい。					

自己評価の指標

【達成状況の指標（各教職員による評価）】

- 4 具体的な取り組みが行われており、目標等の達成が期待できる。
- 3 具体的な取り組みが行われている。または、具体的な取り組みに向けて積極的に検討中である。
- 2 組織（分掌・学年等）として一般的な議論はしたが、具体的な取り組みに向けての検討に至っていない。
- 1 課題の重要度は理解しているが、全くあるいはほとんど検討していない。

【評価の指標】

- | | |
|----------------------|------------------------|
| A 十分な取組が行われた。 | B おおむね十分な取組が行われた。 |
| C やや取組が不十分で改善が必要である。 | D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。 |

学校関係者表評価の指標

【自己評価の適切さに関する指標】

- | | |
|----------------|---------------|
| A 適切な評価である。 | B ほぼ適切な評価である。 |
| C やや不適切な評価である。 | D 不適切な評価である。 |

【改善に向けた取組の適切さに関する指標】

- | | |
|-----------------|----------------------|
| A 十分な効果が期待できる。 | B ほぼ十分な効果が期待できる。 |
| C あまり効果が期待できない。 | D 全く効果は期待できず、改善を要する。 |